

## 海岸防災林に対する 地元意識 (524)

酒田署・治山事業所 成田 七郎

### はじめに

国有林の管理運営に対しては、最近急速に多様化され様々な要請があります。

特に、森林のもついろいろな機能を高度に発揮することが強く望まれている海岸防災林もその一つにあって存在が注目を集めており、その役割の重要性が高く評価されているところであります。

山形県庄内地域においても、全国的にも稀に見る広大な砂丘地の中に官・民有林あわせて、1600ha余りの海岸防災林があり、その殆どが飛砂防備、防風等の保安林として指定されております。

近年、経済発展と国民生活の向上に伴い、当署管内においても酒田北港開発、庄内空港建設をはじめ、高速交通網整備、レジャー産業の拡大等により土地の利活用が、森林以外の目的に向かって急速にその姿が変貌しつつあります。

管内国有林は、延べ30Km余り、林帯幅200~800m、面積約800haの防災林となっており、造成の歴史は長く、1000年以上も前から先覚者達の手によって植付けられ血と汗の結晶となって今日の姿に美林化されたものであります。

営々として築き上げられてきたこの大事な遺産をいかに守り育てあげていくか、また、次代の流れにどう対処し調和を保つか、防災林の持つ広域的な機能が高度に発揮できるよう、そして、誤りの無い維持管理の方向を探るべき課題として、直接防災林との利害関係の立場にある地域住民から、アンケート形式による調査を実施しましたので、その要点を報告します。

なお、この調査地区を今回は酒田市以南にとどめたので、管内全域でないことを申し添えます。

### 1. この調査は世帯主を対象として、

答え方は、 1・はい 2・いいえ の二者択一式としました。

年代構成は、40代以上が74%で4分の3を占めています。(図-1)

職業構成は、農業が43%で農村型の集落であることが分かります。(図-2)

居住年数は、50年以上が3分の1、31年以降が70%になっています。(図-3)

図-1 年代構成

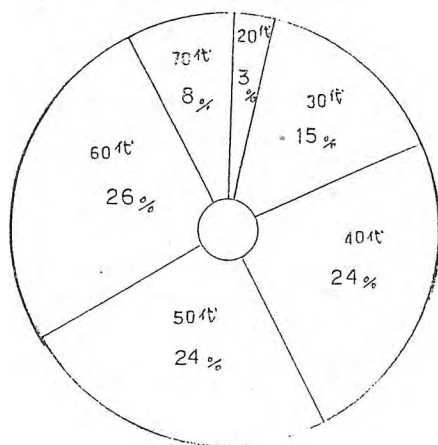


図-2 職業別構成

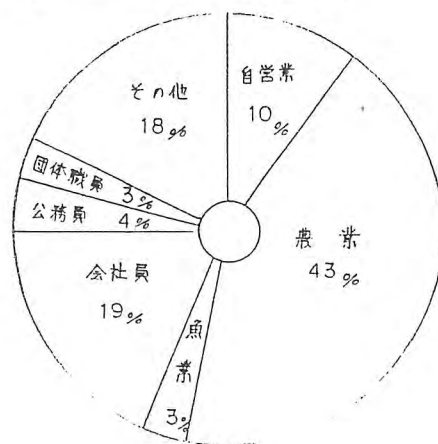
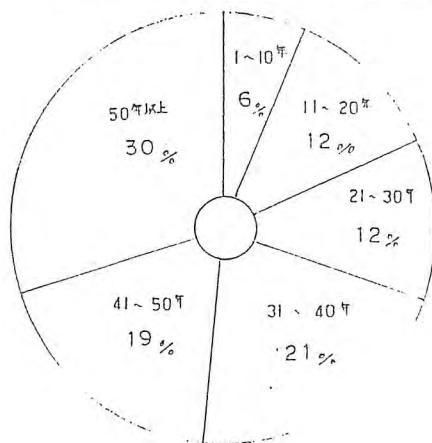


図-3 居住年数別構成



## 2. 項目別の調査結果

設問1 松林は地域住民の生命と財産を守るためですが、その機能を果たしていると思いますか。(表-1)

83%の人達が機能を果たしていると認めており、心強く感じていますが、20~30代が63~67%と低くなっていることが気になります。このことは、松林がほぼ整備されつつあることと、直接被害の経験がないことなどにより、その効果がどんなものか肌で感じ取っていないためと思われます。この傾向が将来にわたり多くならないことを願っています。

設問2 現在、国有林民有林合わせて約1600haの海岸保安林がありますが、十分と思いますか。(表-2)

現在の面積で十分とする人が全体の70%であり、特に農業の人が各年代とも高い数値を示しています。

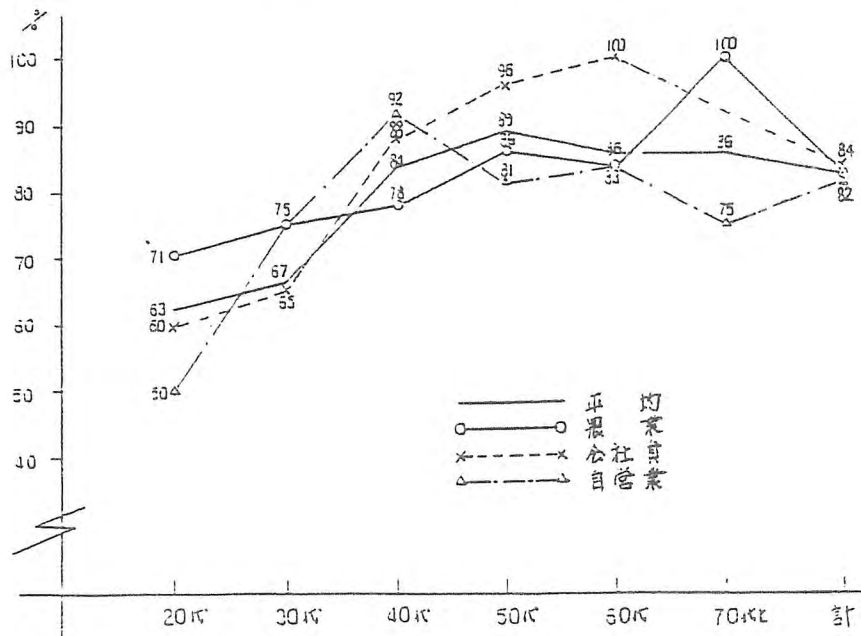
このことは強風や飛砂の害などで農作物の生産量が直接左右される職業であることからすれば意外であります。

また、会社員、自営業の40~50代の人々の半数が十分と認めていないことがわかります。

設問3 当署管内の海岸防災林について手入れはよくされていると思いますか。

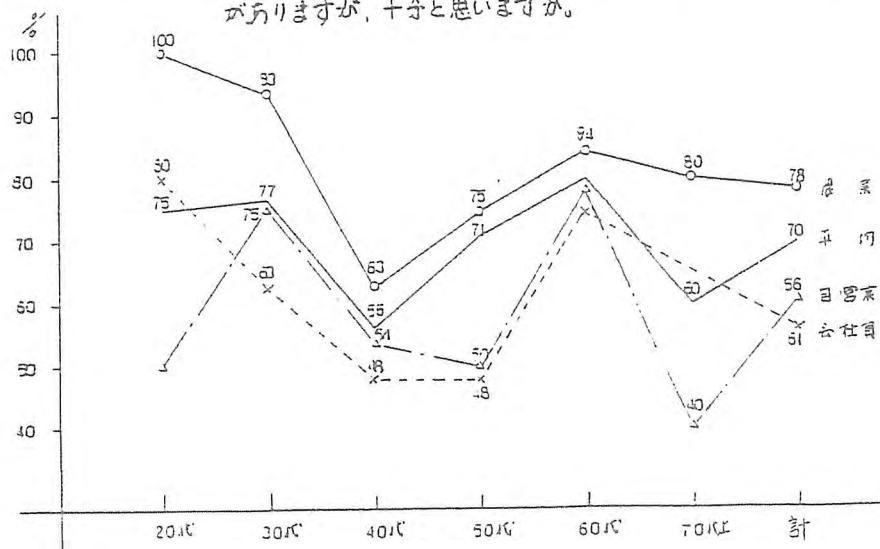
表—1

松林は、地域住民の生命と財産を守るため設けられたものですが、その機能を果たしていると思いますか。



表—2

現在庄内砂丘上に、国有林、民有林合せ約1,600haの海岸防災林がありますが、十分だと思いますか。

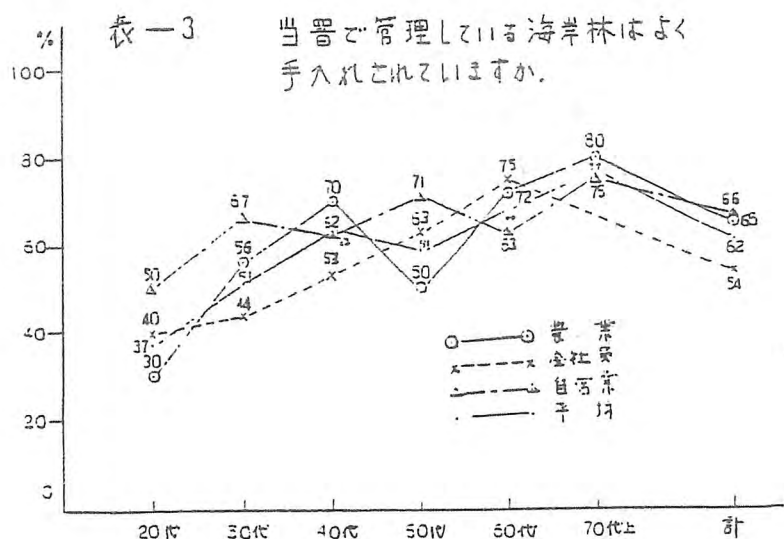


(表—3)

全体として62%の人が手入れはよく行き届いているとしていますが、不十分と認める38%は若年層ほど強く、30代未満では約半数以下となっております。

40代以上は職業別に大差のないことがわかります。

手入れの行き届いた完全な森林とはどんな姿なのか、極めて抽象的ですが40%近くの人がさらに積極的な手入れを求めていることを無視することはできないと思います。

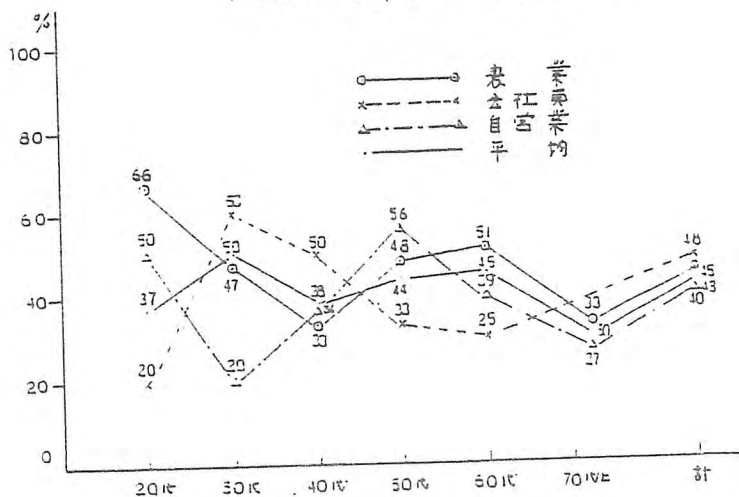


設問4 松林を大切に守るために出入り口に施錠をしておりますが、誰もが自由に出入りできるようにした方がよいと思いますか。(表-4)

全体として43%の人が施錠の必要性を認めています。57%が不要としています。

林内を広く一般に開放し地域との関係を向上させる役目のあることは認めますが、一部無法ものの侵入により林地が破壊される危険が大きいので、今後も施錠は継続していく考えであります。

表-4 松林の中で、大切に守るために出入り口に施錠をしておりますが誰れもが自由に出入り出来ることを望みますか。



設問5 松林を伐採し、跡地を工業用地等に転換して利用することには、もつと強い制限が必要だと思いますか。(表-5)

総合では72%と高い比率で制限の必要性を求めています。

特に20代のほぼ全員が制限すべしとなっており、また、40～50代は職業により相違が目立っております。

農業の人は

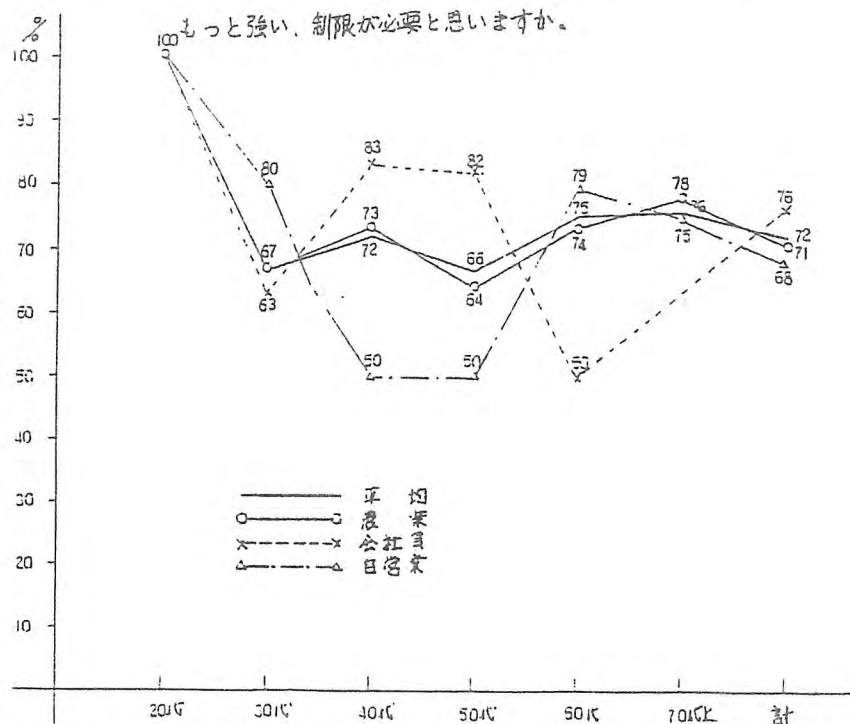
各年代ともに制限を望む比率が平均して均衡がとれています。このことについては、意見、要望として数多く出されており、特に、観光目的とした開発には絶対的な拒否反応があります。

また、公共事業であっても慎重に対応するようにとの意見が圧倒的に多くなっています。過去における開発についても、やむを得ず協力はしたものの、簡単に賛成したものではない人が数人います。

### 設問その他

- ①海岸林の松林は人の手により造成され、長い年月を要したことを90%近くの人理解しております。
- ②海岸林の中に国有林、民有林のあることを92%知っています。
- ③林内に粗大ごみ等が不法投棄され、環境が悪化している実態を知っている人が79%になっています。
- ④毎年、海岸林内外の近くで山火事が発生しているが、この事実を知らない人が意外に多く居ります。(57%)
- ⑤営林署で毎年、垣根、柵等を作つたり砂草(ハマニンニク)を植栽している事実を知っている人が94%となっているものの、若者たちが自動車、バイク等で林内に乗り入り破壊が目立っていますが、この事実を知らない人が41

表—5 松林を伐採し、跡地を工業用地等に転換し利用することについては





%となっていることは、ただ、漫然と見ているとしか理解できない面もあります。

おわりに

1. 時代と共に地域の人々は国有林との係わりが薄くなり、特定の方々のみ接するようになったことは本当に残念であります。このことは今回の調査にも影響しているであろうことは否定できません。

意見の中に「日頃から民間の意見等も聞くべきだ」という声があります。

2. 農業を営んでいる人が約半数で、純農村型と理解できますが、松林が及ぼす農作物への影響が正しく認識されているのでしょうか。以外と楽観的な見方をしていることが予想外であります。このことは風上に位置してある海岸線の国有林が安定の方向を示していると思われれます。しかし、会社員等農業以外の人々が厳しい見方をしております。

3. 現況林の手入れに対する見方も、40%近くの人たちが手入れ不十分としており、積極的かつ継続して事業を進める必要のあることを痛感しています。

4. レクリエーション等に利用するための林地開放に対する意見も多く出ており、今後の検討課題であります。

一定区域と面積を限定し、開放の方向で進めるべき事案と考えております。

さらに開発に伴う松林の損失については非常に厳しい意見と要望があり、開発の対象から除外すべき区域を設定することも必要と思えます。

今回の調査は、対象地区の35%に該当する世帯主を無作為に抽出して調査要請を行い、55%の回収でしたが、その中には数多くの意見、要望があり、私達の身近に住んでいる人々の「生の声」として収録されております。

各設問において、20代70代上にバラツキが見られましたが、人数が少ないこともあってやむを得ないと判断しています。40～60代については、それほど大差はありません。設問も30項目と欲張った数でしたが、次回は分析の方法も含めて検討していきます。国有林（海岸林）では長い年月をかけて、多くの人々が海岸防災林の造成に取り組んでいることに、感謝と激励の声も数多くあったことは力強く感じております。

私達の仕事が地域住民と密着し、生命と財産を守る重要なものであることを誇りとして、美しい海岸林を来るべき21世紀に継承するべく今後も努力したいと思っております。